春・秋連結学期　｜　今出川校地開講科目

プロバスケで地域を盛り上げよう！
～社会的課題をスポーツで解決

1 目的・概要

2019 ラグビー W 杯、2020 年東京オリンピック・パラリンピック、2021 年ワールドマスターズ関西と世界的なスポーツイベントが連続して日本で開催されます。また、内閣が発表した「日本再興戦略 2016」では GDP600 兆円に向けた成長戦略のなかで、スポーツの成長産業化が取り上げられています。また、プロ野球では地方チームが躍進、バスケットボールでは B リーグの開幕など、プロスポーツが全国に広がり且つ地域に密着し、多くの人々にとって身近な存在となっています。

本プロジェクト科目では、京都市を舞台に、B1 リーグ所属の京都ハンナリーズの地域性を活かして、京都市の社会的課題を解決する取り組みをしました。今回、私たちが社会的課題として取り上げたのは「観光による道路渋滞」です。京都市も取り上げている課題でもあるので、私たちも学生として何が出来るか模索し活動しました。

Annual Schedule

2018 年	4 月	現場視察（京都ハンナリーズの試合観戦）
	5 月	スポーツチームの地域貢献の活動を調べる
	6 月	京都市の社会的課題の調査、京都市役所（交通局、市民スポーツ振興室、観光 MICE 推進室、総合企画局）へ訪問し京都市の社会的課題を聞き取り調査、ゲストスピーカー　高田典彦氏（京都ハンナリーズ運営会社スポーツコミュニケーション KYOTO 株式会社　代表取締役社長）
	7 月	調査した社会的課題に対して企画の作成と企画を高田社長にプレゼンテーション
	9 月	今での反省と今後の課題・計画についての討議、行う企画の具体化と実行準備
	10 月	企画に趣旨に合う観光ルートの選択とお店・神社。お寺に取材協力の依頼、取材の準備
	11 月	取材の実行（観光ルートと観光地の写真撮影、京都ハンナリーズの選手とチアリーダーへのアンケートの実施）
	12 月	パンフレット・Web サイト・SNS の作成と配布
2019 年	1 月	企画反省、成果報告会

2 成果達成度

春学期は、京都が抱える課題について各自で調べ発表した後、京都市へヒヤリングを行い、観光問題、生産年齢人口の減少問題の 2 つに絞って解決を図ることにしました。秋学期は、2 つに絞ったプランを並行して進めました。前者は、朝活観光を PR するパンフレットと web サイトを作成しました。後者は、業界研究セミナーを企画しましたが、京都ハンナリーズ側との予定が合わないため、お流れとなりました。以下、2 つのプランについて詳しく説明します。

今回焦点を当てた京都の観光問題とは、京都の観光地の混雑を指し、観光客の時間帯と場所を分散させることで、混雑を抑えられると考えました。そこで、朝の空いている時間帯に回れるような観光ルートを合計 4 つ作り、観光客が少ないスポットを取り上げた他、選手とチアにアンケートを取り、おすすめスポットを紹介しました。ハンナリーズのマスコットキャラクター“はんニャリン”を使って各スポットで撮影を行い、撮った写真をパンフレットと web サイトに掲載しました。パンフレットは 1000 部用意し、500 部を観光案内所、ホテル、ゲストハウス、お寺など観光客に見てもらえるように配布し、web サイトの閲覧回数は 13600 回を超えました。（2019 年 1 月 7 日時点）また、SNS を使って朝活を宣伝し、web サイトとリンクさせました。活動の最後に、スポーツチームの持つ力に期待することを市役所の職員の方、京都ハンナリーズの方、神社仏閣の方にもインタビューを行い、評価をいただきました。

3 プロジェクトを通じて

私たちは今回のプロジェクト科目を通じて多くのことを学びました。

まず１つ目は自主的な行動の大切さです。私たちの科目は自由度が高かった反面、どこにアポを取ればいいか、私たちが解決できそうな地域課題は何か、と自分達で考えて行動することが求められました。

また企画を実行する段階で最初に企画していたイベントが様々な事情で頓挫し、イベントの変更を余儀なくされてしまったので、発表までの短い時間で成果の数字を出すためにどうしたらいいか苦心しました。最終的に外国人観光客の多いゲストハウスにパンフレットを置いてもらい、SNS ではハンナリーズのファンの方に告知することで朝活という新たな考えを広めることができたと思います。これらのことから自分達で考え行動することの大切さ、面白さを学びました。

２つ目はチームワークです。私たちのグループは秋学期にメンバーが半分になってしまいました。私たちはこの危機を乗り切るべく各々が責任感をより強め、一致団結しました。その結果、朝活を広める活動は大成功に終わり、このことから一人一人が責任感をもつことの大切さ、皆で協力することで問題を解決することができることを学びました。この一年間のプロジェクト科目で得た経験や学びをこれからの学校生活や社会に出た時に活かしていきたいと思います。

編集後記

プロスポーツは感動や面白さを生み出すエンターテインメント性は高いことは周知のことだと思います。しかし、この１年間の活動で、プロスポーツの団体がどのように地域貢献することが出来るのか、どのような手法が適切かを学ぶことが出来ました。また、今回は京都ハンナリーズ，京都市役所，その他多くの企業や神社・お寺と協力する機会がありましたが、予定の調整や私たち意図をうまく伝えるのが難しかったです。そこから、スケジュール調整の大切さや自分の言葉で意思を伝える重要性を学びました。この活動から得た学びや経験をこれからも活かしていきたです。１年間、ありがとうございました。

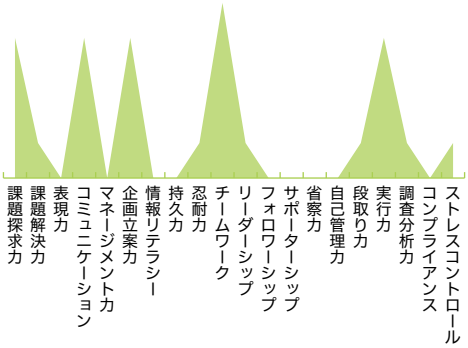
プロジェクトメンバー

溝口 大地（政3）　松村 淳平（法3）　植田 篤史（経3）　水谷 颯斗（商3）　江澤 高志（商2）　杉山 智織（TA）

プロジェクト活動 アンケート集計結果

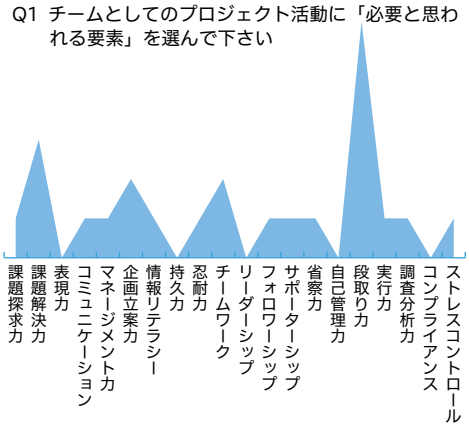
授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

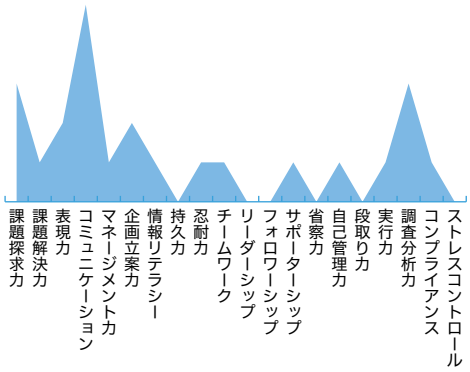


春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

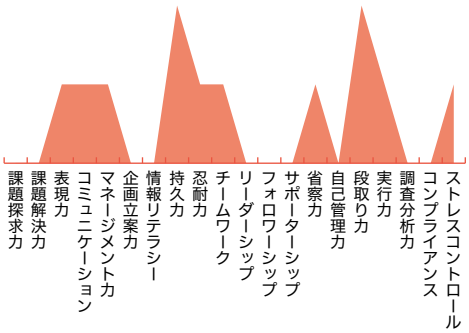
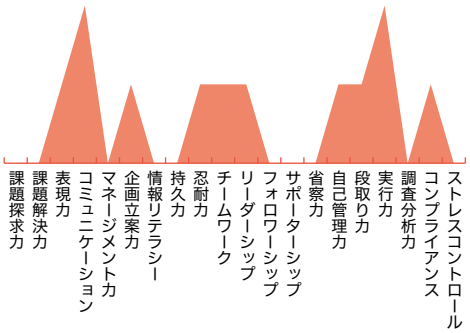


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい